

文芸OGネットワーク通信



Vol. 16

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

共立女子大学文芸メディア研究室内

文芸OGネットワーク 代表 稲見 和子

Te l / Fa x 03-3237-2681

発行：2012.3.24

URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei

共立祭参加 2011年10月15日(土)、16日(日)、神田キャンパスで共立祭が催された

本館1階のロビー、講堂、グラウンドなどでは、ダンス、ファッション、音楽などの各サークルが日ごろの活動の成果を披露し、おおいに賑わった。

本館地下1階～5階の教室ではサークルの展示やバザーなど、2号館では学部のコースやゼミの展示が行われ、3号館ではサークルのほか看護学科の展示などが行われた。5号館では今回も櫻友会の全国支部物産展が開かれ、地震で大きな被害を受けた東北各地の物産の売れ行きが好調だったという。

2011年のテーマは「Re:」(再生)。3月11日の東日本大震災で被害を受けた方々には一日も早く立ち直ってほしいという祈りと願いが込められているという。それを踏まえてか、売店を出店しているサークルでは、「売り上げを義援金として寄付します」と掲げているサークルも目についた。

OGネットの会場は本館4階407号室。メイン展示では、共立女子大学の卒業生である劇作家、川崎照代氏の仕事をポスターとパンフレットで紹介した。さらに軌道に乗って

きた「卒業生による就職活動支援」の様子を写真で紹介し、15号まで発行された「文芸OGネットワーク通信」のバックナンバーを展示。茶菓を用意し、歓談のコーナーを設けたので、若い人が話し込んでいく姿も見られた。小規模ながら、バザーも行った。



会場風景

川崎照代さんについて

川崎照代さんは、文芸学部劇芸術コースを1969(S44)年に卒業された劇作家である。

故郷鹿児島県枕崎を舞台にした作品「塩祝申そう」で1978年度文



化庁創作奨励特別賞を受賞、新進劇作家の道を歩き始め、今日まで数多くの劇作品を発表している。同じ鯉漁の港町を舞台とした「塩祝申そう」「鯉群」「港の風」三部作の一举上演(劇団「ぐるーぷえいと」)は93年度の演劇界の大きな話題となった。この三部作をワーグナーの「ニーベルングの指輪」になぞらえて『浜蔵』というある神々の一族の世界の崩壊の物語である(みなもとごろう氏)と評した批評もあった。近年は文学座のために「野分立つ」(1995年)、

「初雷」(2007年)を書き下ろし、とりわけ「野分立つ」は地方公演の希望が多い作品である。

川崎さんを劇作の世界に誘ったのは、3年次に受講した故藤木宏幸教授担当の「ドラマ演習」であったという。現在OGネットがすすめている演劇資料整理の仕事は、劇芸術研究室の助手であった川崎さんがそもそも始められたものである。川崎さんの演劇にそそぐ愛情と情熱が、この大変な作業の基礎をつくりあげる原動力であったにちがいない。

就職支援活動報告

文芸OGネットワークでは、2011年より共立の卒業生による就活支援の活動を始めました。おもな活動は、就活中あるいはこれから就活に挑む文芸学部の学生さんに、経験豊富なOGがアドバイスし、就活を支援するための会を開催するというものです。

あくまでボランティアベースですが、少しでも母校に御恩返しできればという思いから始まりました。どの学生さんもシッカリした考えを持っていますが、それらの長所を後押ししていく会であります。この考えに賛同した仲間とともに、私たちの人生経験を是非学生さん達に伝えていければと活動を行っております。

2012年1月までに3回開催しました。

第1回 平成23年7月開催。10名の学生が参加。アドバイザーとして教員、就職進路課、OGが参加。

第2回 平成23年10月開催。8名の学生が参加。アドバイザーとして教員、就職進路課、OGが参加。

第3回 平成24年1月開催。9名の学生が参加。アドバイザーとして教員、就職進路課、OGが参加。

今後は学校側（就職進路課）や先生方と連携して、より学生さんのニーズに応えるべくフレキシブルに対応していこうと考えています。

会に参加してくださった方々からは、目前の就職活動のみならずOGの苦労話、またOGによる採用サイドの話など、学生たちのその後の生き方などに大きな影響を持つのではないかとのご意見も寄せられました。毎回、終了の時間がきても話は尽きることなく続き、とても内容の濃いミーティングとなりました。

今後の課題としては、まず、こ

のように温かく内容の濃い活動を多くの方に如何に周知していくかがということがあげられます。そしてもう一点は、学生の皆さんに学年を問わず、就職に対する意識を持っていただき、現場の状況を身近に知っていただくということです。意識を高め、現場の状況を知ればもっと積極的に就活に取り組めるのではないかと思います。この会を通して学生さん同士の協力の輪が広がり卒業後も相互に連携していけるようになればいいと望んでおります。

なお、この活動をお手伝いしてもいいと思われる方のご参加をお願いいたします。今のところ、会の開催は不定期ではありますが、ご自身の社会経験をお話しいただける方、また、活動の運営（会合時の撮影や議事進行等）をお手伝いくださる方のご参加をお待ちしています。

森田 久枝 (S54 卒)

劇芸術資料室から

資料整理の2011年は、夏頃からデータベース化の第一歩を踏みだした。資料がコンパクトにまとまっていた宝塚歌劇東京公演を開演年月日、演目、組、出演者等を一覧表にして、その数およそ300件、ほぼ年末に入力終了。また5月26日から1ヶ月ほど共立女子大学本館1階ロビーで「井上ひさしの劇世界」展開催。その期間に開催されたサロン講座では、ひさし氏三女、井上麻矢氏に「父の残した劇団 こまつ座の仕事」と題して興味深い話をしていただいた。

秋頃からは展示の終わった井上ひさし氏関係資料のデータベース化に取りかかったが、まだ鉛筆の先でつけた小さな黒点にすぎない。2台のパソコン（1台はOG ネット購入、もう1台は劇芸術研究室から借用）を駆使して、これからも延々と入力作業が続く。しかし資料整理に参加している人達は高年齢者、パソコンを自由自在にこなせる人材の確保が必要不可欠である。パソコン大好きOGの参加を期待したい。

村上 智子 (S38 卒)

連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々②

前号からスタートした「私の学生時代—文芸学部で学んだ日々」。第2回目は、1期生の山田史子さんに学校行事や寮生活、部活動などに触れながら、創設時の“共立ライフ”の様子を振り返っていただいた。

常々、高校時代の恩師から東京での楽しかった学生時代のことを聞かされていた影響もあり、東京での大学生活に憧れを抱き広島県から上京、同郷の大先輩のお勧めもあって共立女子大学も受験。他校では学べない教科内容に魅力を感じ、共立女子大学文芸学部 [国文学専攻] に入学する。その気持ちの中には当時もてはやされ始めたマスコミ関係の仕事への関心もあったかと思う。

【講義】

文芸学部の講義を担当して下さったのは、東大、早大、東北大に縁のあった教授・助教授の先生方や当時の放送界、出版界、映画界、文学界で屈指の先生方であった。それ故「本来、君達的能力では決して聴講できないハイレベルの講義であるから真剣に学ぶように」と先生方から励ましを受けたものである。

講義内容は非常に豊かで、時間の許す限り多くの講義を聴講した。懐かしく思い出されるのは羽織袴・雪駄履きの岡崎義恵先生の凛としたお姿と、「お金の無い君達は教養のためデパートの書道・美術・陶器展等多く見に行くように」と勧められたことである。久保田万太郎先生の美しい板書や優しい語り口の講義も忘れがたい。

【部活動】

私は家政学部にあった「短歌研究会」と東大、早稲田、中央、明治、学習院、国学院、青山学院等の学生で構成される「大学歌人会」にも入

会した。長期休暇中以外は、毎月のように各大学が持ち回りで歌会を開催していた。共立女子大学短歌研究会は中河幹子先生のご指導を仰いだ。先生からは「今のうちに広く学び、しっかりした人としての基礎を身につけなさい」と短歌以外のことも教えていただいた。

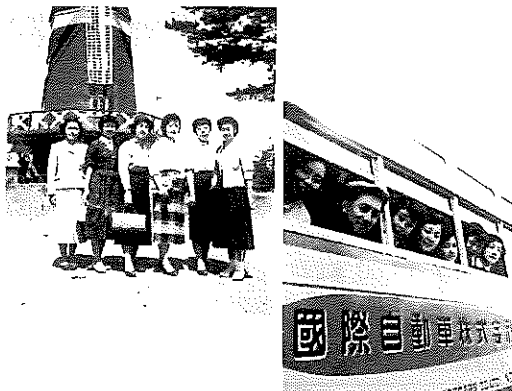
昭和28年12月5日、短歌研究会主催で「文芸講義」を、吉田精二先生、本林勝夫先生を講師としてお招きし、文芸の第二教室で開催。また翌29年12月4日には佐藤佐太郎氏、中河与一先生に講師をしていただき開催した。

【教育実習】

共立女子高校で昭和31年6月に準備と評価を含めて全15日間、教育実習生として貴重な体験をした。私は国語の高等学校二級普通免許と中学校一級の普通免許取得。

【遠足】

昭和28年春「箱根」、秋「日光」、29年春「鎌倉」、秋「村山貯水池」、30年春「水郷めぐり」、31年春「ユネスコ村」、32年卒業旅行「北海道」等であったかと思う。その他所属する研究会やグループで遠足や旅行も行われていた。



【寮祭】

昭和29年12月4~5日、杉並区杉並区の成宗新寮で開催。NHK「歌のおばさん」の安西愛子さんの独唱会等が行われた。翌30年12月19日夕、前夜祭で鰐淵晴子さんのヴァイオリン演奏、寮生の演劇があり、夕食後は仮装大会、夜はファイアーストームに点火、スクラムを組んで歌を唄い楽しんだ。20日は研究作品や漫画(寮生作)等が展示された。



『文芸学部50年誌』より

【バレーボール大会】

昭和30年5月学部対抗試合が始まり、6月4日の決戦では3点差で被服学部優勝、文芸学部は準優勝。

【特記】

その当時、毎日のようにラジオから共立講堂の名が聞かれていたが、昭和31年2月23日夜8時20分頃、原因不明の火事で焼失。学長の多大な尽力で32年3月の卒業式は新講堂で挙行された。

思えば、先生・友人・両親…多くの方々の慈愛に支えられた4年間であったと感謝している。

山田 史子 (旧姓：岡竹)
(S32 卒)

*遠足の写真は
山田史子さんの
私蔵のものです。
(編集部)

サークル探訪

箏曲部

心に響く優しい音色 —— 今回は、箏曲部を訪ねました。

42年という歴史のある部で、演奏会も39回目とのこと。演奏形態には、琴だけの演奏と、琴、尺八、三味線で一緒に演奏する三曲があり、共立の場合、三曲は他校と合同で練習をしている。部員数は17名(留学生1名を含む)で、毎週木曜日に「十三弦の琴」と「十七弦」を使い、練習を重ねている。糸の太さはみな同じだが、琴柱(きんじ)と呼ばれるものを動かすことで、糸をそれぞれの音の高さに変えていく。音合わせは、自分の耳で出来る部員もいれば、チューナーを使う部員もいるそうだ。流儀は、角爪を使う生田流。宮城派の柳井美加奈先生を講師に迎え、グループごと(曲ごと)にレッスンに励んでいる。十七弦は、十三弦の琴より太い弦を使うので、その音は低く、ベースの働きをしている。

「和楽器のことを知って、触れて、さらにその良さを知って欲しい。そしてその楽曲のイメージを伝えられたときに最高に嬉しいし、聴いてくださっている方に自分達の気持ちが伝えられているのだと思う」と部長の米島由季さんは言う。さらに、「私達は、琴と巡り会ってとても恵まれた環境にいると思う」と続ける。入部のきっかけは、高校時代から琴を弾いていたので続けたいという人、大学に自分の居場所がないと感じたときに琴と出会ったという人、パリの大学で日本の芸術を学んでいたのやってみたかったという留学生など様々である。

部員の皆さんの穏やかな口調と、人への心配りが、相手の気持ちをとても穏やかに暖かくしてくれる。皆が口を揃えて部のまとまりの良さ、部員



同士の関わりがとても楽しいと話してくれたが、それは、みんなで協力して準備をする様子等からも伝わってくる。とてもアットホームな部である。また、毎週水曜日の昼食は、部員全員で一緒にとるということで、その結びつきはますます強いものになっている。琴というと地味な印象があるが、和楽器の良さをもっともっと知って欲しいという部員全員の思いを伝えたいと思う。

今日も“一・十、斗(ト)、為(イ)、巾(キン)”の譜面を前に13本の弦を爪弾いていることだろう。

《 広場 》

■栗田紀子さん(S38卒): 2007年の共立祭に創作織物で、展示にご協力いただいた栗田さんが、2011年10月13日~18日、横浜市の「ギャラリー ハイド&シーク」で、「栗田紀子と仲間展 織・花の世界」と題して、展示会を開き、作品を出展。

■仙葉弘子さん(S33卒): 所属している「陶研会」が4月7日(土)~12日(木)「横浜市民ギャラリー」で「神奈川県土を焼く」というテーマで展示会を開く。仙葉さんは創作陶磁を出展する予定。

■文芸学部のアーカイブプロジェクト開始。

文芸学部では、草創期からの記憶を音声、映像その他で記録するというアーカイブスの計画が動き始めている。OGネットワークも協力を要請され、メンバーの第一期生(S32卒)の江川優香里さん、下郷叡子さん、阿部美奈子さん、その他同期の卒業生ら合わせて15名が、2011年10月19日、文芸学部准教授北村弥生先生のもとに集まって、文芸創立当時の様子や思い出など、2時間ほど話をした。話し合いの場は録音・撮影された。

掲 示 板

OG ネットワーク総会: 5月26日(土) 11:00 本館にて開催予定

文芸サロン講座: 総会終了後 13:30 開催予定

講師: 松崎まこと氏(放送作家)

編集後記

震災から1年経ちました。今後も人々の様々な思いに寄り添っていききたいと思います。

今号は共立の卒業生がボランティアでレイアウトの作業をしてくださいました。原稿をお寄せくださった方々に心より感謝いたします。(E)